



日本最小の薪能
今年で第九十二回を数えます

「秘すれば花」
小さいがゆえに
気が満ちる

日本最小といわれる二木屋薪能。
キャストとスタッフで40人、
お客様60人。贅沢の極みです。
庭の松と篝火。天空の星と風の音。
ただ忽然と能舞台が現れて、
自然の中で行われる能・狂言。
幽玄の世界をご堪能くださいませ。



2020年二木屋薪能半能「阿漕」 写真：国東薫

2021年《秋恒例》二木屋薪能(タキギノウ)

◆曲目

第90回 10月 15日(金)
第91回 16日(土)
第92回 17日(日)

大藏流吉次郎狂言会
狂言：「栗焼」(クリヤキ)

シテ 大藏 教義
シテ 大藏 吉次郎(重要無形文化財)
シテ 大藏 吉次郎(重要無形文化財)

金春流 座・SQUARE
半能：「鵜飼」(ウカイ)

シテ 高橋 忍(重要無形文化財)
シテ 辻井 八郎(重要無形文化財)
シテ 山井 綱雄(重要無形文化財)

◆開場／18時10分

◆開演／18時40分

薪能とご会席 2万8千円

(1ドリンク付き・税サ込)

・二木屋華会員様は4名様まで2千円引
・雨の場合は座敷能になります。



2018年秋二木屋薪能・半能「六浦」

二木屋
薪能



2020年二木屋薪能狂言「文山立」 写真：国東薫

日本国登録有形文化財 会席料理 二木屋

さいたま市中央区大戸4-14-2

TEL048-825-4777 FAX048-831-2452

nikiya.co.jp

お申し込みは
お早めに

048-825-4777 二木屋まで

半能・鵜飼 (ウカイ)

あらすじ

安房国清澄出身の僧(ワキ)が、徒僧(ワキツレ)を伴い、甲斐国石和を訪れる。一行は所の男(アイ)に教えられた川辺の御堂に一晚を過ごすことにするが、その夜、松明を持った鵜使いの老人(前ジテ)が姿を見せる。話すうちに徒僧が、かつてこの地を旅した際、よく似た鵜使いに「宿一飯の恩を受けたことを思い出すと、老人は」その鵜使いは後に、禁漁の石和川で鵜を使って漁をしたために、仲間たちの私刑に遭い簀巻きにされて川に沈められて殺されました」と語り、実は自分こそが、その死んだ鵜使いの亡霊なのだと言乗る。老人は僧の求めに応じて、懺悔のためにかつての鵜飼の業を披露する。その面白さに、老人は殺生の罪も忘れて酔いしれるが、やがて闇の中に姿を消す。

改めて所の男から事情を聞いた僧たちは、河原の石に「一字ずつ」「法華経」の経文を記し、それを川に沈めて鵜使いの老人を供養する。するとそこに地獄の鬼(後ジテ)が現れ、鵜使いが無事に成仏を遂げたこと、そしてそれを可能にした「法華経」の功德のありがたさを称えて舞う。

狂言・栗焼 (クリヤキ)

あらすじ

主人は太郎冠者を呼び出し、ある方からもらった栗が四十個あることの意味を考えさせた。

太郎冠者は「しじゅう(40/始終)末代まで仲良く」という意味ではないかと言うと主人は喜び、皆にご馳走したいからと焼き栗にするように命じた。

太郎冠者は台所で栗を焼き始める。

一つ焼いたらはじめてどこかに飛んで行ってしまった。

そこで太郎冠者は「焼き栗はメをかって焼けば飛ばさない」とを思い出す。

そうして焼きあがった栗を主人に持っていこうとするが、いかにも美味しそうで一つだけと食べてみると、あまりの美味しさに全部食べてしまった。

そして主人に苦し紛れの言い訳をする。

二木屋薪能

日本最小といわれる二木屋薪能。

キャストとスタッフで40人、お客様60人。贅沢の極みです。

庭の松と篝火。天空の星と風の音。

ただ忽然と能舞台が現れて、自然の中で行われる能・狂言。

幽玄の世界をご堪能くださいませ。

狂言 / 大藏流 / 吉次郎狂言会 —— 能 / 金春流 / 座・SQUARE ——



大藏 吉次郎
(重要無形文化財)



大藏 教義



高橋 忍
(重要無形文化財)



辻井 八郎
(重要無形文化財)



山井 綱雄
(重要無形文化財)



井上 貴覚
(重要無形文化財)

日本国登録有形文化財 会席料理 二木屋

さいたま市中央区大戸4-14-2

TEL048-825-4777 FAX048-831-2452

nikiya.co.jp

※二木屋薪能が雨天の場合は、お座敷能を行います。完全予約制にて開催致します。満席や貸切の場合は御容赦下さい。

お申し込みは
お早めに

048-825-4777 二木屋まで